

日本建築学会建築計画委員会計画基礎運営委員会 安全計画小委員会 [アーカイブ](#)

■過去の主査・幹事・イベント

年度	主査	幹事		備考
2025				
2024				
2023	土屋伸一	峯岸良和		2024.2_第25回シンポ
2022	(明野設備研究所)	(建築研究所)		
2021	峯岸良和	桑名秀明		2021.12_第24回シンポ
2020	(竹中工務店)	(鹿島建設)		
2019				
2018				
2017	桑名秀明	水落秀木		
2016	(鹿島建設)	(清水建設)		
2015	水落秀木	?		2016.3_第23回シンポ
2014	(清水建設)			
2013	土屋伸一	水落秀木		2014.3_第22回シンポ
2012	(明野設備研究所)	(清水建設)		
2011	林広明	土屋伸一		2012.3_第21回シンポ
2010	(大成建設)	(明野設備研究所)		
2009	掛川秀史	村井裕樹	八木真爾	2010.2_第20回シンポ
2008	(清水建設)		(佐藤総合計画)	
2007				2008.3_第19回シンポ
2006				
2005	志田弘二	林広明	水落秀木	
2004		(大成建設)	(清水建設)	
2003				
2002				2003.1_第18回シンポ 2002.4_第17回シンポ
2001	富松太基	佐野友紀	林広明	200.11_第16回シンポ 2001.4_第15回_東京 2001.4_第15回_大阪
2000	(日本設計)		(大成建設)	
1999	矢代嘉郎	掛川秀史	富松太基	2000.3_第14回シンポ

1998	(清水建設)	(清水建設)	(日本設計)	1999.1_第13回シンポ
1997	吉田克之 (竹中工務店)	掛川秀史 (清水建設)	北後明彦	1997.12_第12回シンポ
				1997.1_第11回シンポ
1996				
1995				1995.4_第10回シンポ
1994				1994.9_第9回シンポ
1993	浜田信義 (日建設計)	古瀬敏 (建築研究所)	高橋清	1993.12_第8回シンポ
1992				1999.3_WGシンポ
				1993.2_第7回シンポ
				1992.9_第6回シンポ
1991				
1990				1990.6_第5回シンポ
1989	浜田信義 (日建設計)	池田浩敬	上原茂男 (竹中工務店)	
1988				1989.3_第4回シンポ
				1988.9_第3回シンポ
1987	浜田信義 (日建設計)	直井英雄	吉田克之 (竹中工務店)	1988.3_第2回シンポ
1986				1986.11_第1回シンポ
1985	守屋秀夫	浜田信義 (日建設計)	吉田克之 (竹中工務店)	
1984				
1983	守屋秀夫	矢代嘉郎 (清水建設)	吉田克之 (竹中工務店)	
1982				
1981	?	?		
1980	?	?		
1979	?	?		
1978	?	?		
1977	広瀬貞之	太田利彦		
1976				
1975				
1974				
1973	広瀬貞之	池田武邦		
1972				
1971				
1970				
1969	吉武泰水 (東京大学)	池田武邦 (日本設計)		
1968				

* 所属は当時

■設置

1968.10 (昭和 38 年)

主査 吉武泰水(東京大学)／幹事 池田武邦(日本設計)／委員 尾崎一雄, 大坪昭, 太田利彦, 沖塩莊一郎, 郭茂林, 梶谷裕一, 河村健, 嶋富士夫, 林昌二, 伴弘好, 広瀬貞之, 細川一, 三宅敏郎, 村尾成文, 守屋秀夫, 横山正

建築雑誌 1981 年 7 月号

太田 1962 年 12 月に建築計画関係の研究者の懇談会が開かれ、議事録を見ますと吉武先生の司会、浦先生の記録となっております。そのころは、いまでいうところの建築計画は、学会の研究分野では計画言論、現在の環境工学の中に包括されていました。したがって設計計画の研究委員会は建築設計計画規準委員会の中の一分科会として位置づけられておりました。しかし研究対象も研究者の関心も多少異なりますので、設計計画の研究者が、よりいっそう交流を深めたいという主旨の集まりをもったわけです。こうして独立した委員会をつくることに大方の賛成を得まして、1963 年 9 月に理事会で承認されて建築計画委員会が発足しました。そして建築設計計画規準委員会のころからすでに活動していたいくつかの委員会が、建築計画委員会の独立を契機に新しい小委員会として再発足しました。

太田 1963 年の設立時点ですでに発足していたものを含めて設置希望の小委員会は、高層建築、設計教育、モジュール、設計システム、劇場建築、学校建築、建築学史で、実際には最後の建築学史はできませんでした。後に高層建築が発展解消して安全計画。そのあと教育。次に研究交流ができて、現時点ではなくなっています。それから統計資料。最近になってハンディキャプト、地域施設、構法計画。ごく最近に人間工学ができました。

沖塩 縦割りから横割りに変わったものに高層建築小委員会があります。この小委員会は超高層ができたときに学会で編集した高層建築技術指針の中の計画部門を分担したのが始まりだったと思います。当時、霞が関ビルなど超高層建築については防災規定が非常に厳しくて、実際に建物にならないような要求が出てきたわけです。確かに人命は大切ですから安全でなければならぬけれども、いろいろな分野の人がばらばらに要求を出すと建物にならない。特に法律は何か災害が起こると、その面だけ着目して厳しくする。そこで、高層建築だけでなく、建築の安全の問題を、法律ができてから反対するのではなく、根本的に考える委員会が必要じゃないかということで、高層建築小委員会が発展解消して安全計画小委員会になったのです。

<http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s6/>

日本建築学会建築計画委員会計画基礎運営委員会 安全計画小委員会

Committee on Architectural Planning, Architectural Institute of Japan Subcommittee on safe design planning for built environment

■過去の活動計画